JA広報通信　写真・文：園芸研究家　淡野一郎

サヤインゲン（つるなし）

種まき後50～60日で収穫できる
採れたての味わいは格別

さやが柔らかく、硬くなりにくい、
筋なしの平さや品種「つるなしジャンビー

原産地の気候から比較的涼しい気温を好みます。霜の心配がなくなれば種まきや植え付けができます。

生育適温は高めの方が、枝数が増え、花芽も早くでき、花数は多くなります。枝数は本葉2枚の頃の栄養でも増えるので、この時期の苗を、肥料を施した土へ植え付けます。32度以上では受精不良になり花を落とすことから、温暖地以西の春まきはこの頃収穫が終わります。秋は7月下旬～8月中に種まきすれば、残暑が落ち着いた9月中旬から開花し、下旬から収穫できます。

品種は、つるのあるなし、さやの形でさまざまあります。草丈が低いつるなし品種は長い支柱は不要で、小ぶりなコンテナで栽培でき、直径24cmの鉢で2株、長さ60cm程度のプランターなら6株ほど育てられます。

【基本情報】

- 分類：マメ科インゲンマメ属
- 原産地：北米メキシコ南部～南米アルゼンチン北部の高地
- 発芽適温（地温）：22～28度
- 生育適温（気温）：15～25度
- 日当たり：日なた
- 好適pH：6.0～6.5

【病害虫情報】

ハダニ類：軒のあるベランダは乾燥しやすく発生しやすい。葉裏などに発生したら殺ダニ剤で防除する。

アザミウマ類：高温・乾燥下で発生して葉全体に白っぽい細かな筋が出て株が弱る。防除は早めに。

サヤインゲン（つるなし）の栽培方法

1 種まき

市販の野菜用培養土を入れた直径9cmのポリ鉢に、深さ約2cmの穴を4つ開け、種のへそ（写真1）を下にして1粒ずつまく（写真2）。土をかけ、たっぷり水をやる。発芽適温なら3、4日で芽が出てくる。

ポイント

出芽適温を保つ。気温の低い時期は出芽までは日当たりの良い室内や戸外は不織布をかけて保温する。

2 間引きと植え付け

出芽後7日ほどして最初の本葉（初生葉）2枚が開いたら、はさみを使って2株にする（写真3）。続けて、1カ所2株分の元肥（IB化成38g）を混ぜた培養土を直径24cmの鉢へ入れ、苗を植え付ける（写真4）。植え付け前には苗に水やりしておき、土が崩れて根を傷めないように注意する。土を寄せ、最後に水をやっておく。

ポイント

枝数を増やすため、本葉2枚の時期を逃さず植え付ける。

3 支柱立て・誘引

植え付けから10日ほどで、倒れないように長さ約90cmの支柱を立て（写真5）、ひもで縛っておく（写真6）。

ポイント

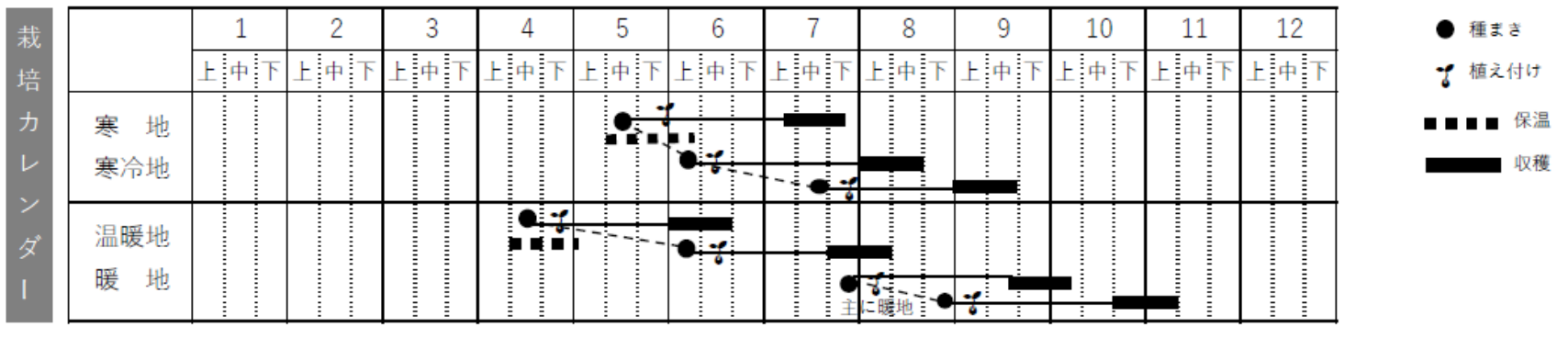
梅雨時は雨が当たらない場所で、梅雨明け後は風通しの良いできるだけ涼しい所で栽培する。開花後はさやを大きくするため土の乾きに注意する。

4 収穫

種まきから50～60日、開花後（写真7）2週間ほどして、さやが長さ12～14cmの頃、中の種の膨らみが外見で分かるようになったら、なるべく気温の低い朝に収穫する（写真8）。収穫が遅くなると筋っぽくなるだけでなく、さやの成長ばかりに栄養が取られて、開花が止まってしまうので早めに収穫する。

ポイント

インゲン本来の格別な味は、採れたてを1、2分ゆでればOK。



写真©ICHIRO AWANO